

今後の取り組み（事業）と細目メニュー（* 以下の細目メニューや実施主体は、今後、公共交通事業者様や関係者、庁内等と調整したうえで選定し整理します）

基本方針（方向性）	取り組み（事業）	細目メニュー	補足（計画期間の実施概要など）	分類	実施主体（想定）			連携・協力・支援
					泉南市	公共交通事業者	市民等	
①公共交通を将来まで持続できるようにします。	1－1 さわやかバスの運営の改善							
		■さわやかバスの適正な受益者負担のあり方の検討	・さわやかバスの収支等の現状を市民等に周知（理解していただく） ・運賃の見直しの継続的な検討	継続				
		■さわやかバスの効率化のための運行方法（ルート・ダイヤ等）の見直し	・利用状況を継続的に把握し、効率化・適正化を目的とした見直し定期的に検討。（市、運行事業者が連携しながら調整。市民等は取り組みを理解するよう努める。）	継続	市	公共交通事業者		市民等
		（利便性向上、わかりやすさ、意識の醸成等による利用促進については、下記②～③に記載）						
	1－2 バスサービスの効率化・適正化の検討							
		■バス等の待機スペース・休憩場所等の確保の支援	・回送時間の短縮等を目的として、バス事業者から相談があった場合、市が適地探しを支援する。（→現在もバスの方転地を市が借地し確保している）	継続				
		■完全キャッシュレス化の検討	・乗務員の負担軽減を目的とした、完全キャッシュレス化の検討。	検討	市	公共交通事業者		
		■自動運転の情報収集	・将来に備え、研究・開発、実証実験等の動向を、継続的に情報収集する。	継続				
	1－3 バス・タクシーの担い手確保の支援		（* 事業者の取り組み・努力を、市も支援する。）					
		■市の媒体・イベント等でのPR	・市の媒体・イベント等で、求人広告を行う、合同の説明会を行うなど。	実施				
		■市関連機関経由の人材紹介	・運行事業者から相談があった場合、市関連機関に退職者等（例えば消防所の大型免許保有者など）の紹介等を依頼する。	実施	市	公共交通事業者		市民等 関連機関等
		■移住促進と合わせた職業紹介	・市が移住促進のPR活動をする際に、職業としてバス・タクシーの求人も合わせて紹介する。	実施				

基本方針（方向性）	取り組み（事業）	細目メニュー	補足（計画期間の実施概要など）	分類
②市民のくらしやすさに貢献し、公共交通の利用客をさらに増やします。	2－1 さわやかバスの運行方法の見直し等による利便性向上			
		■混雑時間帯のバス増便等（車内混雑緩和）	・高齢者が座れないような、車内混雑の緩和を目的として、混雑時間帯のバスを増便。（R 9 から一部増便。その後も状況を見ながら継続的に検討。）	実施
		■座席の譲り合いマナー向上	・種々の媒体、車内アナウンス、学校への呼びかけ等で、利用客の意識を啓発する。あわせて、優先座席を増やす・表示を強調するなど	実施
		■利用特性に応じた定期的なダイヤ・ルート調整	・利用状況を継続的に把握し、定期的に、見直しを検討	継続
		■店舗等の敷地への乗り入れ等の調整	・店舗等の建物とバス停が離れている箇所の、敷地内へのバスの乗り入れについて、施設関係者へ打診 ・可能となった場合は、ルート・ダイヤを微調整	継続
	2－2 タクシーの活用・利用促進			
		■タクシーの使いやすさの充実	・現在の取り組みを継続するとともに、今後登場する新たなシステムやサービスについても取り入れることを検討（予約・配車など）	継続
		■福祉の面からの補助等の検討	・福祉の割引券、妊産婦さんへの助成等の検討（福祉部門との連携）	検討
	2－3 複数の公共交通等による外出の利便性の向上			
		■鉄道の維持・充実・調整	・列車の運行本数を維持できるように努める（市も連携しながら取り組む。市民等は運行事業者の取り組みを理解するよう努める。）	継続
		■駅前のバス乗り継ぎ環境充実の方策の検討	・駅前広場のバスペイの確保・充実（必要な箇所について、方策を検討）	検討
		■駅前の送迎車待機スペースの確保の方策の検討	・路上の停車スペースの確保、または駅前の店舗等と連携した仕組みなどの方策を検討	検討
		■公共交通の乗り継ぎ割引等の検討	・複数の公共交通等が連携した、割引や特典等の仕組みを検討	検討
		■行きバス・帰りタクシーの割引等の検討	・複数の公共交通や店舗等が連携した、割引や特典等の仕組みを検討	検討
	2－4 わかりやすさの充実（出発前や乗り場現地）			
		■お年寄りにわかりやすいマップ・時刻表等	・簡易な表現のマップ・時刻表など	実施
		■駅舎、主要施設内のバス情報の掲示	・バス停まで見に行かなくてもよいように、駅舎、主要施設内にバス情報を掲示させていただけるよう、施設関係者に依頼。	実施
		■リアルタイムバス接近情報（継続）のP R・活用	・すでに導入しているバスロケを継続し積極的にP R。 ・駅や主要施設内に、簡易な画面等を置いて表示するなど。	継続
		■バス情報のオープンデータ化の継続（検索サイト等が使用可）	・バスのG T F Sデータをオープンデータ化し、民間の検索サイト等が任意に使用可能とする。（情報の定期的な更新）	検討
	2－5 やさしさの充実（待合環境や車内等）			
		■店舗・病院等の敷地内へのバス・タクシーの乗り入れの調整	・敷地内へのバスの乗り入れや、タクシーの待機について、施設関係者へ打診	継続
		（さわやかバスの車内混雑緩和は2-1と同様）		
		■駅前地区のバリアフリー化の推進	・道路整備事業として	継続
		■駅舎のバリアフリー化、設備の充実、無人駅への対応	・岡田浦駅の山側改札のバリアフリー化 ・和泉砂川駅東口のエレベータ、トイレ整備 ・無人駅への対応方策について、公共交通事業者と市が連携して検討	検討
		■バス停のベンチの設置	・ベンチの設置基準を検討し、継続的に取り組む ・地域で管理していただく仕組みをつくる	継続

実施主体（想定）			連携・協力・支援
市	公共交通事業者	市民等	学校関係者等 施設関係者等
市	公共交通事業者		
	公共交通事業者		市 市民等
市	公共交通事業者		施設関係者 警察 道路関係者 福祉関係者
市	公共交通事業者		施設関係者
市	公共交通事業者		施設関係者 道路・都市整備関係者 市民等

基本方針（方向性）	取り組み（事業）	細目メニュー	補足（計画期間の実施概要など）	分類
③地域の公共交通を守る意識、使える時にクルマではなく公共交通を使う意識を醸成します。	3－1 知る機会の提供（PR活動等）			
		■種々の媒体・イベントでの広報	・市や関連団体の媒体、イベント等で公共交通の利用をPR	継続
		■お年寄りへの説明会・ツアー、高校生への職業紹介など	・種々の取り組みを企画し、できることから、順次実施。	実施
	3－2 体験する機会、考える機会の提供（モビリティ・マネジメント）			
		■学校や地域での意見交換会等	・学校、地域の集まりへ出向いて意見交換会	実施
		■企業・団体等へのエコ通勤の呼びかけ	・従業員のエコ通勤について、企業、団体等へ呼びかけ（まずは市関連職員から始める）	実施
		■地域が主体となった取り組みに対する支援の仕組みの検討	・地域が運営主体となる公共交通等の取り組みに対し、アドバイザー派遣など行う「仕組み」を検討する。（山手地区などモデル地区で試行）	検討
		■バス無料デー、免許返納前のお試し乗車、小学生の乗り方教室、車内お絵描き展など	・種々取り組みを企画し、できることから、順次実施。	実施
		■地球環境、健康増進、市街地活性化等の他分野と連携したPR活動	・地球環境、健康増進、市街地活性化等に係る他部門のPR活動にあわせて、「公共交通＋歩く」による外出行動をPRする。	実施
		■ダイヤ改正にあわせたコミュニケーションアンケート	・新しい時刻表・マップの各戸配布と同時に、ワンショットTFPを実施（考える機会の提供）	検討
	3－3 企業・市民等との協働による取り組み体制づくり			
		■利用促進のための運営委員会の立ち上げ	・市、バス・タクシー・鉄道事業者、市民・企業による三位一体の推進体制 ・定期的に、バスの運営状況、利用促進の取組状況等を共有し推進	検討
		■サポーターズクラブ等の立ち上げ	・さわやかバスを支援するサポーターズクラブ（会報・特典など）	検討
		■スポンサー募集等の検討	・車内広告、バス停ネーミングライツなど	検討
		■店舗や医療施設等と連携した利用促進	・バス利用者への割引特典、「お酒飲むならバスで」などのキャンペーン ・病院送迎バスを補完、「病院にはバスで」などのキャンペーン	継続

実施主体（想定）			連携・協力・支援
市	公共交通事業者	市民等	
市	公共交通事業者	市民・企業・団体等	学校等、警察 他部門の関係者
市	公共交通事業者	市民・企業・団体等	施設関係者

基本方針（方向性）	取り組み（事業）	細目メニュー	補足（計画期間の実施概要など）	分類
④公共交通不便地区の外出手段の確保に、行政・市民等が協働で取り組みます。	4－1 新たな公共交通、地域主体の外出サービス等の検討（実証運行・試行等）			
		■デマンド型乗合交通の可能性検討・試行	・地域の実情に見合った運行・運用方法のデマンド型乗合交通の可能性を、地域が主体となって検討。状況によっては実証運行等で検証。	検討
		■地域が運営主体となった外出サービスの可能性の検討・試行	・地域が運営主体となる外出サービスについて、可能性を検討する。状況によっては実証運行等で検証。取り組みに対し、アドバイザー派遣、運行経費補助等を行う「仕組み」を検討する。 （乗合タクシー、ボランティアによる送迎サービス等）	検討
	4－2 既存資源の活用方策の検討（試行・調査等）			
		■タクシーの活用方策の検討・試行	・地域の実情に見合ったタクシーの活用方策について、可能性を検討。状況によっては試行等。（エリア限定低料金、グループタクシー、タクシーボート等）	検討
		■企業・民間施設等の送迎車の活用可能性の調査	・送迎車への混乗、空き時間の活用の可能性について調査	検討
		■福祉分野のサービス等との役割分担の検討	・誰が乗ってもよい乗合の公共交通と、福祉の外出支援としての個別サービス等とが、役割分担する。（福祉部門との連携） ・外出しなくてよいサービス（出張販売、買い物代行など）との連携（福祉部門との連携）	検討

実施主体（想定）			連携・協力・支援
市		市民等	公共交通事業者
市			タクシー事業者 企業、施設関係者 福祉関係者

基本方針（方向性）	取り組み（事業）	細目メニュー	補足（計画期間の実施概要など）	分類
⑤まちづくりと連携し、まちづくりに貢献します。	５－１ 拠点を活かす集約型の都市づくりとの連携（コンパクト＋ネットワーク）			
		■立地適正化計画の都市づくり（都市部門）	・公共交通が、拠点をつなぎ人の往来をつくる ・都市づくりが、拠点周辺に人を集める	実施
		■駅前地区のバリアフリー化の推進（再掲）		
		■既存施設を活かした待合環境づくりの検討	・空き施設のスペースを活用した、簡易なバス・タクシー待合室・情報室など （バス・タクシー利用客以外も利用できる休憩スポットにするなど）	検討
	５－２ 集客・観光等（まちの賑わい）への貢献			
		■集客・観光等とのコラボ企画等	・店舗・観光集客施設とのコラボ企画・割引・特典・ポイント付与、ラッピング・車内装飾、MaaSなど	検討
		■市民のレジャー等に便利なバス等の検討	・夜間バス（のんびりバス）、夜間乗合タクシー等の可能性検討 （通常より高額に設定する等）	検討
		■来訪者への補完的な回遊手段の提供	・電動キックボード、シェアサイクル、グリスロ、ＥＶカーシェア、循環バスなど （試行等）	検討
	５－３ 人にも地球環境にもやさしいまちづくりとの連携			
		*モビリティ・マネジメントの取り組みは、③と同様		
		■地球環境、健康増進、市街地活性化等の他分野と連携したPR活動（再掲）		
		■人にも地球環境にもやさしい車両の導入の可能性検討	・鉄道、バス、タクシーの車両の更新時に、バリアフリー・ユニバーサルデザインや、地球環境に配慮した車両の導入を検討する。 ・行政による助成等の可能性について継続的に検討	検討

実施主体（想定）			連携・協力・支援
市			道路・都市整備関係者 施設関係者 公共交通事業者
市	公共交通事業者		店舗・観光・集客関係者 サービス事業者
市	公共交通事業者		関係機関等